

Report

～中高生8人が読み聞かせボランティアに挑戦～

読む楽しさから、 伝える喜びへ



毎年、本会が夏休みに実施している学生向けのボランティア活動体験プログラムに、今年度から新たにボランティアグループの活動に参加する内容を始めました。その受け入れにご協力いただいた「読み聞かせボランティアきらら会」のメンバーのかたから参加した中学生、高校生の計8名は、読み聞かせのポイントとなる本の持ち方や見せ方、また絵本の選び方や読み方の基本などについて教えていただきました。そして別日に開催された中央図書館での「お話し会」へボランティアとして参加し、小さな子どもさんやその親御さんを前にして自分で選んだ絵本の読み聞かせを披露しました。



参加者の声

- ・座学での学びを活かして、優しく絵本を読み聞かせることができました。
- ・とても緊張して、上手に読めるか不安でしたが、最後はみんなが笑顔で帰っていかれたので参加して良かったです。
- ・きらら会のかたたちの読み聞かせには、私にはない「絵本にみんなを引き込む力」があると感じました。
- ・読み聞かせの難しさがすごく分かりました。もっと本を読み、物語や人物の気持ちを知り、声に出す練習をしたいです。
- ・活動を通して相手を喜ばせる楽しさだけでなく、自分も楽しくなるということが分かりました。これからも子どもたちを笑顔にして、喜んでもらいたいです。

学生のボランティア活動の受け入れを終えて

参加された学生さんが、沢山練習を積み重ねて臨んでいる姿や、緊張する中でお子さん達の表情を見ながら堂々と読んでいる姿は立派だと感じました。また、読み聞かせ体験後、学生さんが達成感に満ちた表情をされていたことが印象的でした。「また読み聞かせをしたい!」と言って下さり、読み聞かせやボランティアの魅力や楽しさを知って頂けて大変嬉しく思いました。

読み聞かせボランティア きらら会代表 野々部さん



緊張の先にあった、笑顔のごほうび

誰かのためにボランティアをすることは、決して自己犠牲ではなく、笑顔というかけがえのない報酬を受け取ることです。その瞬間こそが、ボランティアの原動力であり、続けていく理由になります。そして、その存在が、社会をやさしくしています。今回の経験を活かし、機会があればぜひまたボランティア活動に参加してみてください。

ボランティアセンター担当者